

令和4年度 島しょ地区の都立学校教育

東京都中部学校経営支援センター

大島



新島



神津島



三宅島



八丈島



父島 (小笠原)



島しょの都立学校

東京都には伊豆・小笠原諸島があり、都立高等学校7校及び都立特別支援学校分教室があります。内地と比べて小規模な学校なので、生徒一人一人と十分に向き合える教育ができます。島しょの都立学校への異動は、その距離感から赴任後の生活にマイナスの印象が先行しがちのようですが、交通機関やネット環境も整備され、島の生活は快適になってきています。さらに、どの島も豊かな自然に恵まれ、その中で教育に携われます。高等学校においては、特別支援学校の先生も異校種期限付異動により、異動が可能です。島での教育の魅力を知っていただき、異動の参考にしていただければ幸いです。

| 島名 | 学校名 | 課程等 | 学科等 | 科名 | 定員 | 令和4年度生徒数 | | 備考 |
|------|----------|-------|--------|---------|--------------------|----------|------|---|
| | | | | | | 学科計 | 学校計 | |
| 伊豆大島 | 大島高校 | 全日制 | 普通 | — | 80名×3学年 | 95名 | 120名 | |
| | | | 併合 | 農林・家政 | 35名×3学年 | 16名 | | |
| | 定時制 | 普通 | — | 30名×4学年 | 9名 | | | |
| | 大島海洋国際高校 | 全日制 | 水産 | 海洋国際 | 70名×1学年 80名×2学年 | 200名 | 200名 | 令和4年度より国際科から水産科への学科改編を行う。大島以外の在住者はドミトリ(寄宿舎)に入舎。 |
| 新島 | 新島高校 | 全日制 | 普通 | — | 40名×3学年 | 34名 | 34名 | 式根島在住者は船で通学。島外在住者対象の選考(令和5年度選抜より)を実施予定。 |
| 神津島 | 神津高校 | 全日制 | 普通 | — | 40名×3学年 | 55名 | 55名 | 島外生徒受入選考を実施。しらすな寮に入寮 |
| 三宅島 | 三宅高校 | 全日制 | 普通 | — | 40名×3学年 | 15名 | 23名 | |
| | | | 併合 | 農業・家政 | 35名×3学年 | 8名 | | |
| 八丈島 | 八丈高校 | 全日制 | 普通 | — | 80名×3学年 | 120名 | 162名 | 島外在住者対象の選考を実施。 |
| | | | 併合 | 園芸・家政 | 35名×3学年 | 20名 | | |
| | 定時制 | 普通 | — | 30名×4学年 | 22名 | | | |
| | 青鳥特別支援学校 | 八丈分教室 | 知的・高等部 | — | — | 5名 | 5名 | 八丈町全域が通学区域。 |
| 父島 | 小笠原高校 | 全日制 | 普通 | — | 30名×3学年 | 48名 | 48名 | 母島在住者はざんねむ寮に入寮。 |

(令和4年5月1日現在)

<大島>

伊豆大島は、都立高等学校のある島の中で、本州から一番近い島です。都心からの距離は約120km程で、調布からの飛行機（1日2～4便）、竹芝からの大型船（1日1便）や高速船（1日3～5便）等で結ばれています。島の中央に三原山があり、カルデラ内の溶岩原や火口、また珍しい地形があることから、平成22年にはジオパークとして認定されています。気候は、黒潮の影響を受け、年間の平均気温は16℃前後です。椿の咲く時期や夏には、多くの観光客で賑わいます。

大島高等学校

大島高等学校は、豊かな自然と温かい人々に囲まれた歴史と伝統を誇る学校です。島の北側、大島空港の近くに位置する大島高等学校は、全日制課程普通科と併合科（農林・家政）、定時制課程があり、今年度は127名の生徒が在籍しています。全日制課程普通科では、多様な進路に対応し、個々の能力を伸ばす授業を展開しています。併合科は、農業と家庭の基礎となる分野について、実習を多く取り入れた実践力を身に付ける教育をしています。定時制課程普通科は、ふれあいを大切にした指導を行っており、三修制を選択して三年間で卒業する生徒も増えてきました。

全日制課程では、令和元年度に外務省の『対日理解促進交流プログラム「JENESYS2019」』の一環である「東京・ジャカルタ姉妹都市交流30周年プログラム」で、7名の生徒がインドネシアへ派遣されました。昨年度は、海外学校間交流推進校、国際交流リーディング校、オリンピック・パラリンピック教育アワード校に指定され、広い視野をもって国内外で活躍でき、社会に貢献できる人材を育成しています。



乳牛の飼育



観光甲子園での発表



大島高校全景

大島海洋国際高等学校

大島海洋国際高等学校は大島の南部地域に位置し、波浮港の近くにありま。全校生徒は200名で、その9割は島しょ地区以外の出身で、183名の生徒は寄宿舎に入り、そこから学校に通っています。令和4年度に「国際科」から「水産科」への学科改編を行い「海に学び未来を拓く」をコンセプトに、令和2年竣工の大型実習船「5代目大島丸（681t）」を活用し、小笠原や沖縄海域での航海実習を行い、操船技術の習得や船内規律、寄港地でのダイビング等の海洋実習を通じて、海洋に関する知識・技能の育成や国際理解教育を推進しています。部活動では「セーリング部」「端艇（カッター）部」「潜水部」など本校ならではの特色があり、いずれも全国レベルでの大会で好成績を収めています。特に端艇部は平成30年度、全国大会で念願の初優勝を果たしました。

卒業後は東京海洋大学をはじめ海洋学部関連の大学や、将来の航海士を目指す船員養成学校、国際関係の学部等々幅広い進路選択をしています。



大島丸



端艇（カッター）部



潜水部

<新島>

新島は白い砂浜が広がる島で、都心から160kmほど離れた伊豆諸島の中ほどに位置する島です。調布から飛行機が1日3～4便、竹芝からは大型船が1日1便、高速船は1～2便、さらに下田からのフェリーが週6便と、様々な交通手段があります。人口は2500人程で、面積は24km²弱、南北に10kmの縦長の形をした島です。

新島高等学校

新島高等学校は、全日制普通科の高等学校で34名（令和4年度）の生徒が学んでいます。本校生徒は新島（本村地区、若郷地区）及び新島から2.4km離れた式根島から通学しており、若郷地区の生徒はスクールバスで、式根島の生徒は連絡船「にしき」を利用して通学しています。

本校は知・徳・体の調和のとれた健全な人間、国際的視野に立ち社会性豊かな人間、個性豊かで創造性に富む人間の育成を教育目標に掲げ、温暖で自然に恵まれた環境を活かした教育活動を行っています。また、村内の学校（小学校、中学校）等と12年間を見通した連携型一貫教育を実践し、出前授業や相互授業参観を行っています。さらに部活動では、体育館の冷暖房完備により、バレーボール部及びバスケットボール部が村内のクラブチーム等と合同練習や練習試合等で交流を行っています。なお、新島村では令和4年度より島外生徒受入事業を開始し、令和5年度入学生より島外の中学校からの応募が可能となります。



新校舎



浜清掃



合同運動会

<神津島>

神津島は伊豆諸島のほぼ中間に位置し、都心からは180km、伊豆の下田から55kmのところにある人口1900人程の島です。島の周囲は22km、面積は18.58km²で、新宿区とほぼ同じ大きさです。島の中央には天上山がそびえ、人気のハイキングコースとなっています。神津島へは、船または飛行機で渡ることが出来ます。竹芝埠頭からは、大型客船で12時間、高速ジェット船だと4時間弱で毎日1便運航しています。飛行機は、調布飛行場から毎日2～3便運航されており、所要時間は45分程です。

神津高等学校

神津高等学校では現在55名の生徒が在籍しています。国公立大学から就職まで生徒の様々な進路希望に応じて、少人数できめ細かな指導を実施しています。「島民に広く愛され、深く信頼される学校」をモットーに、村民運動会や黒潮祭（文化祭）等の機会を通して村民との交流を深めています。さらに、学校の特色化を図る観点から、神津島ダイビング協会の協力を得て、「Marine Day」（ダイビング・シュノーケリング）を行っています。

神津島では、平成28年度から離島留学生の受け入れを始め、今年度で7年目を迎えます。現在では12名（男子7名、女子5名）の留学生がしらすな寮から通学しています。



神津高校周辺（眼下に広がる海岸）



黒潮祭（全校ダンス）



Marine Day

<三宅島>

三宅島は、島の中央に雄山がそびえる火山島で、度重なる噴火によって形成された島です。面積は55.44km²で山手線の内側とほぼ同じ大きさです。年間の平均気温は17.7℃で、30℃を超える日や0℃以下になる日は少なく、黒潮の海に囲まれた温暖多雨な海洋性気候です。国の天然記念物であるアカコッコなど、多くの野鳥が生息していることから、「バードアイランド」とも呼ばれています。都心から180kmの三宅島へは、調布飛行場からの飛行機が1日2～3便、船は竹芝からの大型船が毎日1便就航しています。さらにヘリコプターもあり、大島や御蔵島・八丈島へ毎日1便ずつ出ています。人口は2,400人程で、学校は村立の三宅小学校、三宅中学校、そして都立三宅高等学校があります。

三宅高等学校

三宅高等学校は、全日制の普通科と併合（農業・家政）科があり、今年度は23名の生徒が在籍しています。三宅高校では、全生徒が声を掛け合いながら島の海水浴場で泳ぐ遠泳、シュノーケリング体験など、島の自然を生かした活動を行い、進学から就職まで多様な進路に対応する教育を行っています。また、国内トップクラスのボルダリング施設が村内にあり、その施設を活用し、部活動、体育授業にも取り組んでおります。村とも連携し、保小中高一貫教育の推進にも取り組んでいます。



農場でのお茶の刈取り



海洋教育



ボルダリング

<父島（小笠原諸島）>

父島は、平成23年に世界自然遺産に登録された、様々な動植物の固有種を育む小笠原諸島にあります。都心から約1,000km離れ、緯度は沖縄県北部とほぼ同じです。父島へは東京の竹芝から父島の二見港まで、大型船（おがさわら丸）が、6日に1便程度の割合で片道24時間で運行しています。父島の面積は23.45km²で、千代田区（11.52km²）のほぼ2倍で、2,000人を超える方が暮らしています。父島には小中学校が1校ずつあり、140名の児童と71名の生徒が在籍、約50km離れた母島の小中学校には32名の児童と12名の生徒が在籍しています。

小笠原高等学校

小笠原高等学校には父島と母島の中学校を卒業した生徒を中心に48名が学んでいます。また、母島の生徒のための「ぎんねむ寮」が完備されています。全日制普通科の本校では、「理数研究校」として、外来種の侵入状況の研究を行っています。また、環境省・林野庁・村環境課等と連携した世界自然遺産の地における自然保護活動や、ウィンドサーフィンの授業等特色ある教育活動を行うとともに、国立大学進学から就職まで様々な進路に対応した教育に取り組んでいます。平成30年に小笠原諸島返還50周年、本校も平成31年4月に創立50周年を迎え、地域の教育力を生かした学校づくりを行なっています。



小笠原高校校舎入口



ウィンドサーフィン



兄島野外活動（兄島台地）

<八丈島>

八丈島は都心から約290km離れた伊豆諸島南部にあります。八丈島は東京の島で唯一ジェット機が就航（1日3便）している島で、島の中央部にある八丈島空港と羽田空港間の所要時間は約55分です。竹芝からの大型船（1日1往復）もあり、片道約10時間要します。島の人口は約7,100人で、3つの小学校と3つの中学校、そして八丈高等学校及び青鳥特別支援学校八丈分教室があります。

八丈高等学校

八丈高等学校は、全日制の普通科と併合（園芸・家政）科、そして定時制普通科の3つの学科があり、今年度は5月1日現在で、全日制140名、定時制22名の生徒が在籍しています。

全日制課程は、地域協働・探究学習「八丈学」や、スキューバダイビングを学ぶ授業など、地域の特色を生かした授業を展開している一方で、令和2年度から文部科学省事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の研究開発校の指定を受けています。ハワイ州ワイアケア高等学校との姉妹校提携、島しょICT活用事業モデル校等として、地域魅力化やグローバル人材の育成を目指して教育活動を推進しています。また、島内の生徒だけではなく、島外の中学校から受検した生徒が、全日制では8名、定時制では9名学んでいます。



ハワイ州ハワイ大学ヒロ校



八丈学の授業の様子



定時制のタブレットPCを活用した探究学習の様子

青鳥特別支援学校八丈分教室

青鳥特別支援学校八丈分教室は、通学区域である八丈町全域の知的障害のある高等部生徒を対象とする学校です。令和3年4月にモデル事業として開設され、現在は第1学年及び2学年の5名が在籍しています。

八丈分教室は八丈高等学校内に設置されていますので、小学校・中学校で共に学んだ友達も同じ学び舎で学習することになります。知的障害がある生徒のための各教科等の指導と合わせて、体育祭、文化祭（八高祭）、宿泊行事や学年ホームルーム等では、八丈高等学校との交流及び共同学習を推進しています。ICT環境を活用した本校（世田谷）とのオンライン学習も実施する等、今後、本校・分教室・八丈高等学校の三者で特色ある教育活動を開発・実践していきます。

令和5年度には3学年が揃います。今年度は第2学年生徒が島内の企業や事業所等の協力を得て、就業体験や現場実習を行います。



タブレット端末の活用
（総合的な探究の時間）



体育祭（八丈高等学校と合同）



作業学習（清掃業務）

島しょ地区における教員生活

- ◇**住宅**：教職員住宅は、希望により斡旋されます。単身用はワンルームか1K、世帯用は2K～3K程度。いずれもバス・トイレ付きです。使用料は数千円～2万円台で、共益費がかかります。犬等のペット飼育は禁止です。
- ◇**通勤**：自動車通勤が認められます（条件有り）。自動車の移送は船会社の貨物営業所まで持ち込みになります。どの島にも自動車整備業者があります。原動機付自転車は、利用が多い島と少ない島があります。雨が強く風も強いいため運転には注意が必要です。自転車は、どの島も坂道が多いので、健脚向きです。
- ◇**食料品・日用品**：コンビニエンスストアや、ファミリーレストランなどのチェーン店はありません。商店が多いようです。大きな島にはスーパーマーケットもあり、電子マネーが使えます。
- ◇**金融機関**：ゆうちょ銀行と七島信用組合の店舗があります。都市銀行やJAバンクがある島もあります。
- ◇**通信環境**：携帯電話の使用は、住宅地ではどの会社でもほぼ大丈夫ですが、島内には通信が難しい場所もあります。ネット環境は一部の島・地区でADSLですが、多くは光通信が整備されています。テレビは、どの島でもケーブルテレビにより、地上デジタルとBS放送が受信可能です。
- ◇**病院・保育所**：内科・外科・小児科等の常設診療科のある公立病院または診療所がどの島にもあります。歯科も、ほとんどの島に診療所があります。眼科・耳鼻咽喉科・精神科・皮膚科などは公立病院等の臨時診療科としてあります。また、どの島にも公立の保育所があります。
- ◇**手当等**：島しょ地区は、地域手当など率が下がる手当もありますが、へき地手当や単身赴任手当、隔遠地赴任に基づく昇給加算などがつきます。赴任者の条件により変わりますので、赴任が決まった際には確認してください。

島に赴任した先生方の感想

- 通勤時間が短く、楽である。通勤ラッシュがない。家族との時間ももてる。教材研究に時間をとれる。
 - 生徒数が少なく、内地では考えられないくらい一人一人に時間をかけて丁寧な指導ができる。
 - 内地にはない「島のアイデンティティ」をもった生徒や歴史を感じながら仕事ができる。
 - 自然が豊か。海・山・公園など自然の中で子育てができる。都会にはない大自然を味わえる。
 - お店が少ないなど不便な点もあるが、ネットショッピングができ、それほど苦ではない。
 - 各地区に伝わる伝統芸能を披露する行事等がある。
- ※自分の子供を育てる環境として、島の魅力を伝える先生が多くいました。中でも、週末等に豊かな自然の中で、子供や家族と過ごす時間は、島の生活の大きな魅力のようです。保育所も整っており、高校と小・中学校あるいは行政機関に、ご夫婦で赴任されている方も少なくありません。
- ※総務局『島しょ赴任情報掲示板』に、島ごとの詳しい生活情報や赴任された行政職員の体験談等が掲載されています。併せてご覧ください。

伊豆諸島への交通機関

